This and That at MISHOP　MISHOP News from all activities.

# みんなの活動だより

発行：MISHOP広報部会
2025.9
91

## 「防災出前講座－地震がきたら」に25人参加

「防災出前講座－地震がきたら」が7月8日（火）のMISHOP Loungeで開かれました。参加したのは中国、ウクライナ、イタリア、台湾出身の外国籍市民7人と、通訳・翻訳ボランティアと会員の日本人18人。講師を務めた「NPO法人Mitaka みんなの防災」の川田日出夫さん（写真下）の身振り手振りを交えたユーモラスな講義に、参加者たちは熱心に耳を傾けていました。

講座は昨年1月に発生した能登半島地震（最大震度7）の衝撃的な映像から始まりました。その後はクイズ形式で「家の中にいて地震が起きたらどうすればいいか」「揺れが止まったら何をしたらいいか」「地震後、家で生活するために用意しておくもの」などを、5つのグループに分かれて話し合いました。

講座終了後、参加者には防災食の炊き込みご飯と簡易トイレが配られました。

【感想シートから　Comments from the impression sheets】

### 外国籍市民　Foreign participants

●非常に感謝、初めての体験で大変良かった。次回の学習をまた期待する。（中国）

●防災に対する知識が深まった。説明が分かりやすくて良かった。（台湾）

### 日本人ボランティア　Japanese volunteers

●あらためて地震の備えのお話が聞けて良かった。忘れていたことへの気づきもあった。川田さんの熱いお話のおかげで楽しめた。中国の人と話もできて良かった。

●何を備えるか？という質問に外国籍の方は、身分証・お金など、他のグループにないアイデアを出して、違う視点をもらい、学びとなった。

On July 8, a Disaster Preparedness Lecture, “In Case of Earthquake! ” was held. Seven foreign residents from China, Ukraine, Italy, and Taiwan and 18 Japanese volunteers participated. The lecturer, Hideo Kawada of the NPO Mitaka Minnano Bosai talked about what to do if an earthquake occurs while you are inside your house, what to do when the shaking stops, and what to prepare for living at home after an earthquake.

Message from the Editors 編集室

漫画家・久住昌之さんによるポスター・チラシも完成して、国際交流フェスティバル開催に向けた準備が進んでいます。今年はコロナ禍で中止していた新規出店が再開されます。

広報部会では今年も当日の事業記録を担当するため、カメラまたはスマートフォン、ビデオで撮影してくださるボランティアを募集しています。ご協力いただける方はMISHOP事務局までご連絡ください。

# 国際理解講座
# 「知れば知るほど楽しい！温泉文化」開催

7月5日（土）、三鷹駅前コミュニティ・センターで、第89回国際理解講座「知れば知るほど楽しい！ 温泉文化―ユネスコ無形文化遺産登録を目指して―」が開催され、猛暑の中、45人が参加しました。講師の北出恭子さん（写真下）は杏林大学地域総合研究所客員研究員として国内外の温泉調査や研究の一方、会社を設立して独自の泉質評価法による販促ツール作成、温泉地づくりの助言や温泉施設の設計などにも従事されています。

幼児期に低体温症で学校を休みがちだったが、温泉で体温が上がり健康体になって皮膚のトラブルも減少し、温泉地訪問で知識や人生が豊かになり、ストレスを払拭して幸福感が増進したと「温泉と健康」の話から講座は始まりました。前半は日本に温泉の多い理由、温泉地の数、温泉の適応症と禁忌症、温泉の物理・美容・心理効果などの基礎編でした。

後半は、温泉を世界に発信しつつある国を挙げての現在の動きを理解できるように、日本の温泉文化と歴史、日本と海外の温泉事情などを話しました。“湯治”は心身の調子を温泉の効用で調整するために、温泉宿に長期滞在して病気治療や健康回復する古来の日本文化の一つですが、“ウエルネス”の観点から世界で温泉が見直され、特に日本の“温泉・湯治（SPA）”は、ウエルネスツーリズム（その半分は温泉が中核）が国際的に注目されているそうです。世界のウエルネス経済は2022年に5.6兆ドル、2027年には8.5兆ドル規模予想とのこと。

この状況が「日本の温泉の再興と進化」につながる事例として熊本県地獄温泉の清風荘が紹介されました。2016年の熊本地震で建物が倒壊、その後の土砂災害で甚大な被害を受けましたが2020年に復活しました。混浴文化を守るため“湯浴み着”を導入し、インバウンド（宗教、タトゥ等）やLGBTや手術後の方など多様性に配慮した誰もが安心して楽しめる混浴の宿に生まれ変わったそうです。日本古来の温泉文化が、世界の変化に対応して見直され皆さんが楽しむ新しい伝統につながるのは素晴らしいことです。全旅連（全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会）「温泉文化」ユネスコ無形文化遺産全国推進協議会は、2028年にユネスコ無形文化遺産登録を目指して署名活動を展開中だそうですが、登録が被災した温泉地の再興と進化に少しでも助けになれば嬉しいことです。

北出さんは最後に「温泉はワインや日本酒と同様に五感で味わってほしい、それぞれの個性を楽しんください」と話されました。（会員・山根正彦）

【感想シートから　Comments from the impression sheets】

●温泉大好きで、また来週、群馬の温泉に行く予定。温泉知識も増え、今まで以上に温泉が楽しめそう。

●温泉は観光のついでに入っていたので、今日の話を聞き、温泉の種類や効能で行先を決めて行ってみたくなりました。今後は温泉を活用して健康増進に役立てたい。

●温泉についてとても多く、また、まとまった知識を得ることができた。ヨーロッパでの温泉事情のお話もとても参考になった。ユネスコ無形文化遺産登録に向けた動きがある事を知り有意義であった。

A lecture on international understanding entitled, “The more you know, the more you enjoy them! Onsen Culture—Aiming for UNESCO Intangible Cultural Heritage Registration” was held at Mitaka Ekimae Community Center on Saturday, July 5, 2025, with 45 participants. The lecturer, Kyoko Kitade, a visiting researcher at Kyorin University, talked about the reasons why there are so many hot springs in Japan, the number of hot spring resorts, positive and negative properties of hot springs, the beauty and psychological effects of hot springs, Japanese hot spring culture and history, and hot springs overseas.